

—命と光と愛を世界のために—

LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD

GROWTH



後援会通信 秋号 vol.3 2003.10

—大学と家庭をむすぶ— Linking the University with Families

 東北学院大学

CONTENTS

● 後援会長ごあいさつ	1
● 後援会総会次第および審議事項の概要	2
● 後援会収支決算書および予算書	3
● 後援会事業報告、東北学院大学文化講演会のご案内	4
● 後援会会員からのご意見	5
● 学長とヒタウ大司教との対談	7
● 私の出身高校	9
● ゼミナル訪問	10
● キャンパス・スケッチ	11
● 私と東北学院	13
● キャンパスニュース、クリスマスの起源	14
● キャンパスの声、就職部だより	15
● 学習支援と成績表の郵送について	16
● 同窓生インタビュー	17
● サークル紹介・編集後記	18

表紙：多賀城キャンパス礼拝堂

後援会長ごあいさつ

後援会 会長

村 松 巖



(株)七十七銀行代表取締役頭取、同銀行代表取締役会長、
(社)全国地方銀行協会副会長などを歴任。

現 在

仙台商工会議所会頭、日本商工会議所副会頭、東北六県商工
会議所連合会会長、東北経済連合会副会頭、(株)七十七銀行
相談役、在仙台スウェーデン名誉領事など多数の要職に就任。

街路樹の葉も色づき、いよいよ秋本番を迎えました。在学生のご父母の皆様方には、ますますご壮健のこととお慶び申し上げます。日頃は本後援会の活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

さて、今年も東北学院大学後援会総会と地区後援会を開催し、多くのご父母の皆様にご出席をいただきました。後援会総会は、すでにご案内のとおり去る5月24日(土)に泉キャンパスで1,600名余のTGファミリーが集い、賑やかに開催されました。「平成14年度庶務報告」「平成14年度収支決算報告」「平成15年度事業計画(案)」「平成15年度収支予算(案)」などをご審議いただき、お蔭様を持ちまして原案どおり可決承認されました。また、同時に開催されました大学開放プログラムにも多数ご参加いただきました。特に、

「本学教員による公開講座」や「パイプオルガンコンサート」は、会場が一杯になりご父母の関心の高さに驚かされました。「学科(専攻)別懇談会」と「相談コーナー」では、大学開放プログラムの終了時間ぎりぎりまで熱心に参加されており、“大学と家庭をむすぶ”役割を垣間見ることができました。

地区後援会については、去る8月2日(土)から9月13日(土)にかけて北は旭川地区から南は浜松地区まで全32地区で開催し、総勢1,300名余のご父母に出席をいただきました。総会時の大学開放プログラムに倣って、今回初めて「本学教員による公開講座」を開催しましたが、身近なテーマでお話をさせていただいたせいか大変好評を博したようで、次年度以降も大学側の協力を得て継続していきたいと願っているところです。また、個別面談では、ご子女の就職問題や修学状況について大学から派遣された教職員と直接ご相談いただきました。このような厳しい経済状況のなか、親元を離れて学生生活を送っているご子女には何かとご心配でしょうが、地区後援会に出席されたご父母の皆様方の悩みや不安の解消に少しはお役に立てたのではないかと考えております。

ご承知のとおり、東北学院大学後援会は、在学生のご父母の皆様を会員として、ご子女の円滑な学生生活と大学の充実・発展に寄与するため昭和24年に設置されました。設置されてから早半世紀以上が過ぎますが、これからも“大学と家庭をむすぶ”をモットーに各種事業を展開して参ります。どうぞ、会員の皆様方には今後とも後援会活動に積極的にご参加をいただき、更なるご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平成15年度東北学院大学後援会総会

平成15年度東北学院大学後援会総会次第

日時：平成15年5月24日(土)10時40分
 場所：東北学院大学泉キャンパス礼拝堂
 司会：事務局長 高橋 征士

1.開会宣言

2.聖書朗読並びに祈祷 宗教部長 佐々木哲夫

3.挨拶 会長 村松 巖
 学長 倉松 功

4.議 事

(1)平成14年度庶務報告

庶務担当理事 後藤 久幸

(2)平成14年度収支決算報告

会計担当理事 阿部 省一

(3)会計監査報告 監 事 天江 皓一

(4)平成15年度事業計画(案)

庶務担当理事 後藤 久幸

(5)平成15年度収支予算(案)

会計担当理事 阿部 省一

(6)その他

5.閉会宣言

◇教務部・学生部・就職部からの説明

(1)教務部より 教務課長 菅野 健

(2)学生部より 学生課長 吉田 俊一

(3)就職部より 就職課長 桔梗 元子

新緑が映える泉キャンパスに約1,600名のご父母をお迎えし、平成15年度の後援会総会並びに大学開放プログラムが行われました。総会において審議されました事項は、次の通りです。

1.平成14年度庶務報告

後藤庶務担当理事より、「平成14年度東北学院大学後援会庶務報告」に基づいて報告があり、①後援会役員人事②平成14年度役員会③平成14年度総会及び大学開放プログラムについて④平成14年度地区後援会実施状況について、それぞれ原案通り承認されました。

2.平成14年度収支決算報告

阿部会計担当理事より、別紙資料「平成14年度東北学院大学後援会収支決算書」に基づいて報告があり、原案通り承認されました。(本通信3頁参照)

3.会計監査報告

天江監事より、別紙資料「監査報告書」に基づいて報告があり、原案通り承認されました。(本通信3頁参照)

4.平成15年度事業計画(案)

後藤庶務担当理事より、①後援会総会の開催日②地区後援会の開催③東北学院大学文化講演会の開催、についてそれぞれ説明があり、原案通り承認されました。(文化講演会については、本通信4頁参照)

5.平成15年度収支予算(案)

阿部会計担当より、別紙資料「平成15年度東北学院大学後援会収支予算書(案)」に基づいて説明があり、原案通り承認されました。(本通信3頁参照)



平成14年度東北学院大学後援会収支決算書

収入の部

平成15年3月31日(単位:円)

科目	予算額	決算額	予算との差異	備考
前年度繰越金	42,066,801	42,066,801	0	
後援会費	203,148,000	203,102,000	△ 46,000	12,851名
大学院	3,168,000	3,120,000	△ 48,000	195名
文学部	43,344,000	43,360,000	16,000	2,710名
経済学部	74,624,000	74,288,000	△ 336,000	4,643名
法学部	27,488,000	27,680,000	192,000	1,730名
工学部	34,240,000	34,128,000	△ 112,000	2,133名
教養学部	16,224,000	16,336,000	112,000	1,021名
文学部二部	590,000	610,000	20,000	61名
経済学部二部	3,470,000	3,580,000	110,000	358名
雑収入	50,000	21,054	△ 28,946	預金利息
合計	245,264,801	245,189,855	△ 74,946	

(△印は収入減)

監査報告書

平成15年4月17日、本学会議室において、平成14年度東北学院大学後援会会計収支決算書並びに諸帳簿・証憑書類等監査をいたしましたところ総て正確に整備されておりましてご報告いたします。

平成15年4月17日

東北学院大学後援会

監事 伊東 幸三
 監事 天江 皓一
 監事 白木 進

支出の部

平成15年3月31日(単位:円)

科目	予算額	決算額	予算との差異	備考
体育文化費	141,452,000	141,106,414	△ 345,586	各部活動費・大会参加費・合宿費等補助
学生会関係補助	16,000,000	19,876,665	3,876,665	
体育会関係補助	63,000,000	61,650,646	△ 1,349,354	
文化会関係補助	3,430,000	3,408,898	△ 21,102	
就職活動関係補助	4,240,000	5,017,570	777,570	
工学部学生会補助	8,700,000	5,135,264	△ 3,564,736	
大学院学生会関係補助	3,168,000	3,168,000	0	
学生活動指導費	1,570,000	1,610,000	40,000	
大会・合宿等付添補助	16,330,000	16,964,640	634,640	
特別強化補助費	15,500,000	15,194,045	△ 305,955	体育選手・文化活動特別強化補助費
雑費	9,514,000	9,080,686	△ 433,314	懸賞論文・優秀選手表彰他
保健衛生助成費	1,000,000	1,000,000	0	保健室備付器具薬品代
奨学金助成費	18,000,000	18,000,000	0	奨学会奨学金等
緊急募与奨学金助成費	2,500,000	2,500,000	0	家計急変による貸与奨学金
就職活動助成費	4,000,000	4,000,000	0	就職活動費
厚生費	1,500,000	1,500,000	0	福利厚生費等
時報助成費	13,000,000	13,000,000	0	時報印刷費、郵便料他
総会費	35,000,000	31,509,492	△ 3,490,508	総会費・地区後援会費等
雑費	3,000,000	2,582,246	△ 417,754	事務局費他
予備費	25,812,801	0	△ 25,812,801	
次年度への繰越金	0	29,991,703	29,991,703	
合計	245,264,801	245,189,855	△ 74,946	

(△印は支出減)

平成15年度東北学院大学後援会収支予算書

収入の部

(単位:円)

科目	前年度予算額	本年度予算額	前年度との対比	備考
前年度繰越金	42,066,801	29,991,703	△12,075,098	
後援会費	203,148,000	199,804,000	△ 3,344,000	12,520名
大学院	3,168,000	3,040,000	△ 128,000	190名
文学部	43,344,000	42,144,000	△ 1,200,000	2,634名
経済学部	74,624,000	78,624,000	4,000,000	4,914名
法学部	27,488,000	26,528,000	△ 960,000	1,658名
工学部	34,240,000	32,512,000	△ 1,728,000	2,032名
教養学部	16,224,000	16,096,000	△ 128,000	1,006名
文学部二部	590,000	100,000	△ 490,000	10名
経済学部二部	3,470,000	760,000	△ 2,710,000	76名
雑収入	50,000	20,000	△ 30,000	預金利息
合計	245,264,801	229,815,703	△15,449,098	

(△印は収入減)

支出の部

(単位:円)

科目	前年度予算額	本年度予算額	前年度との対比	備考
体育文化費	141,452,000	143,952,000	2,500,000	各部活動費・大会参加費・合宿費等補助
学生会関係補助	16,000,000	18,000,000	2,000,000	
体育会関係補助	63,000,000	63,500,000	500,000	
文化会関係補助	3,430,000	3,030,000	△ 400,000	
就職活動関係補助	4,240,000	4,590,000	350,000	
工学部学生会補助	8,700,000	7,500,000	△ 1,200,000	
大学院学生会関係補助	3,168,000	3,040,000	△ 128,000	
学生活動指導費	1,570,000	1,570,000	0	
大会・合宿等付添補助	16,330,000	16,330,000	0	
特別強化補助費	15,500,000	18,000,000	2,500,000	体育選手・文化活動特別強化補助費
雑費	9,514,000	8,392,000	△ 1,122,000	懸賞論文・優秀選手表彰他
保健衛生助成費	1,000,000	1,000,000	0	保健室備付器具薬品代
奨学金助成費	18,000,000	18,000,000	0	奨学会奨学金等
緊急募与奨学金助成費	2,500,000	2,500,000	0	家計急変による貸与奨学金
就職活動助成費	4,000,000	4,000,000	0	就職活動費
厚生費	1,500,000	1,500,000	0	福利厚生費等
時報助成費	13,000,000	13,000,000	0	時報印刷費、郵便料他
総会費	35,000,000	35,000,000	0	総会費・地区後援会費等
雑費	3,000,000	3,000,000	0	事務局費他
予備費	25,812,801	7,863,703	△ 17,949,098	
合計	245,264,801	229,815,703	△ 15,449,098	

(△印は支出減)

平成15年度東北学院大学後援会事業報告並びに予定

2003年

- 4月 3日(木) (入学式)
後援会入会式(於:仙台市体育館)
- 4月24日(木) 「後援会通信」第2号発行
- 4月25日(金) 後援会役員会(於:東北学院同窓会館)
- 5月22日(木) 「父母のための大学ガイド2003」発行
- 5月24日(土) 後援会総会(於:泉キャンパス)
- 8月 2日(土) 地区後援会(盛岡・福島)
- 8月 7日(木) 地区後援会(函館・原町・高崎)
- 8月 8日(金) 地区後援会(旭川・いわき・浜松)
- 8月 9日(土) 地区後援会(札幌・水戸・東京)
- 8月29日(金) 地区後援会(弘前・大館・新庄)
- 8月30日(土) 地区後援会(青森・秋田・山形・郡山)
- 9月 4日(木) 地区後援会(一関)
- 9月 5日(金) 地区後援会(北上・宮古・米沢・会津若松)

- 9月 6日(土) 地区後援会(横手・釜石・宇都宮・新潟)
- 9月12日(金) 地区後援会(大船渡・鶴岡)
- 9月13日(土) 地区後援会(八戸・気仙沼・酒田)
- 10月18日(土) ホームカミングデー(於:土樋キャンパス/後援会協賛)
- 10月27日(月) 「後援会通信」第3号発行
- 11月29日(土) 東北学院大学文化講演会(於:秋田ビューホテル/後援会協賛)
- 12月 5日(金) 後援会役員会(於:東北学院同窓会館)

2004年

- 3月24日(水) (卒業式)
- 3月26日(金) 文化活動特別強化補助金並びに体育選手特別強化補助金交付式(於:土樋キャンパス)



「東北学院大学文化講演会2003」開催のご案内

本学では、今年度より地域社会への貢献の一環として、下記により「東北学院大学文化講演会」を開催することになりました。1886年(明治19年)に仙台神学校として歩み始めた本学は、お陰様を持ちまして今年5月に創立117周年を迎えました。これからも地域社会と連携を深めながら、社会人の教養を高め、併せて文化の向上に資していきたいと考えております。

ご父兄の皆様方にも多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

- ◆ 日 時：平成15年11月29日(土)午後2時～4時
- ◆ 場 所：秋田ビューホテル4階「光琳」
(秋田市中通二丁目6-1 Tel.018-832-1111)
- ◆ 講 師：作家 加 来 耕 三(かく こうそう)氏
- ◆ 演 題：「今、日本が必要としている指導者像」
- ◆ 対 象：一般
- ◆ 定 員：400名
- ◆ 入場料：無料

- ◆ 申込方法：住所・氏名・電話番号・参加者数を書き添えて、ハガキ、ファクシミリ、e-mailのいずれかでお申し込み下さい。先着順で400名様に「入場整理券」を送付します。ただし、申込者数は、お一人様4人までとさせていただきます。
- ◆ 申 込 先：〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1
東北学院大学総務部調査企画課
Tel.022-264-6424 / Fax.022-264-6364
e-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp

後援会会員からのご意見

後援会総会並びに地区後援会でご父母の皆様にごアンケート調査のご協力をお願いしました。その中で、東北学院大学及び本後援会に対し、貴重なご意見・ご要望が多数寄せられました。紙面の関係で残念ながら全てご紹介できませんが、ご父母の皆様にはその一部をご紹介させていただきます。

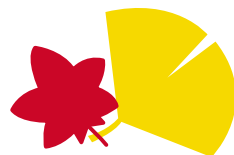
なお、寄せられたご意見・ご要望は関係者で全て目を通し、改善可能なものについては、担当部局での課題とさせていただいております。

■ 後援会総会

- 東北学院大学に入学して早1ヶ月が過ぎ、このような機会に恵まれ、親として感謝しております。(経営1年)
- 初めて来ましたが、広くてびっくりしました。子供がとても良い環境で勉強しているのに安心しました。(法律1年)
- 昨年までは7月でしたが、就職相談などできる、まだ間に合う5月という時期で良かったと思います。(英文4年)
- わが家では長女も学院大にお世話になりましたし、長男も現在お世話になっています。私も7回目の後援会総会に出席し、まるで自分の母校のように思えてなりません。昨年度の要望事項への回答が、きちんとした形で出されるのはすばらしいことです。子供たちがこういう環境のもとで学べることは、親としても幸せなことです。子供が卒業したら、今度は私が入学したい気持ちで一杯です。(経済3年)
- 設備とかいろんな面ですごくと思いました。就職資料室も見学しましたが、この不景気な時でも子供の積極的な活動次第で希望する職につけるのではと思われました。(英文1年)
- 学食のごはんがおいしくなかった。量も大人にはよいが、学生には少ないのでは。(法律2年)
- 食堂の床にたばこの吸殻が捨ててありました。マナーを守らない学生は、社会に出ても通用しないのでは。(経済1年)
- 第二食堂を利用させてもらいましたが、椅子の下(床)にタバコの吸殻が数多く見あたりました。これから社会人となっていくのかな、と思うと残念でなりません。(経済3年)
- 雨の日、子供を送り迎えする時、かならず警備の人から止められるので入りづらいです。ステッカーなり、何かいい方法はないでしょうか。(経済2年)
- 単位取得の件ですが、教員の方より内容等に(テスト)差があると聞きましたが、同じようなテストを受ける事は出来ないでしょうか。(土木3年)
- 娘が通っている大学の様子が知れて満足致しました。(史2年)
- 緑豊かで清掃も行き届いており、大変素晴らしく思います。(情報2年)
- 来年も参加したいと思います。子供が楽しく学べるよう親も協力したいと思います。(経営1年)
- 学生にとにかく一生懸命勉強させて下さい。親は工面して授業料を払っております。休講などもってのほかです。(史4)
- 説明、案内等もわかりやすく、毎年参加します。お蔭で、子供と話題を共有化できるようになりました。子供には有意義な学生生活を送り、社会に貢献できる人に育てほしいと思っています。(法律1年)
- 今年で最後かと思うと少々淋しいです。キャンパスに来れる機会を年2回程度ほしいような気がします。(経済4年)

■ 地区後援会

- 普段、学生生活の様子がわからない分、色々な説明やビデオ等で大学の様子が理解でき、大変有意義に過ごせました。(商4年)
- 出席人数が少なかったため、個別面談をしていただいとても良かったです。大学の先生方が子供たちのことを大変大切に下さることがわかりました。(電気2年)
- 質問等ではなかなか話する事ができないので、会食時に先生とお話が出来て良かったです。(物理2年)
- もっと学内の様子、活動等の報告や子供たちの活動状況を知りたい。就職活動については、大変興味があったので有意義でした。全国大会出場など、勉強とスポーツに頑張っている学生が沢山いるようなので、大学のアピールもかねてもっと父母に伝えてほしい。ビデオ上映がとても良かった。(教養2年)
- 高校でPTA会長をやっておりました。いかに保護者と学校を結ぶかについて苦労した経験がありましたので、地区後援会に出席して学ぶ点が多くありました。(機械1年)
- 初めて出席させていただきましたが、大変有意義な時間でした。特に、ビデオでの学校生活では、子供の様子を見ることができ嬉しく思いました。(機械1年)
- 経済学部の原級止者が多いようにみえるが、大学ではその対策を考えているのでしょうか。(経済3年)
- 初めての参加でした。入学式にも出席できなかったのが大学生活に親として不安でしたが、地区後援会に参加して、安心して「学生生活を送らせたい」と思いました。(経営1年)
- なかなか仙台までは行けないので、地区後援会にはできるだけ時間を作って出席して参りました。学校を知る唯一の機会ですので、これからも地区後援会は続けてほしいと思います。
- また、就職活動の支援には、もっと力を注いでいただきたい。(英文4年)
- 泉キャンパスの近くにはコンビニもなく、野菜を買うのに不便です。生協に野菜を置いてもらえないでしょうか。10時過ぎると学内を歩いてアパートに行けなくなり、遠回りしなければならないが、街灯が暗くて物騒です。何か対応をとってもらいたい。(経営2年)
- 未来のある大学と感じました。子供がどうしても選んだ大学です。(電気2年)
- 昨年、今年と参加させていただきました。参加する度に、入学させて良かったと実感しています。(英文2年)
- 大学がこれほど学生個々に対して、細部までフォローして下さるとは思っていませんでした。(経済1年)
- 大学の皆様の熱意と誠意が伝わってくる地区後援会でした。家内と二人で休みを取って参加いたしました。出席させていただいて大変よかったですと思っています。(機械2年)
- 地区後援会の進め方で、中心を個別面談にしてはどうでしょうか。昼食や図書券は不要。(法律1年)
- 個人対応をもっときめ細かくお願いしたい。(経済4年)



学長とピタウ大司教との対談

長く上智大学法学部教授並びに同大学の学長として奉職され、現在ローマ教皇庁教育局長のヨゼフ・ピタウ大司教を招き、去る6月28日(土)に「人間形成とキリスト教大学」と題して倉松学長と対話が行われました。当日は先に特別講演会も開催されましたが、本号では対話の要旨をご紹介します。

倉松学長 私は、日本のキリスト教大学にいて日頃感じている事柄と今日ピタウ先生からお教えいただいたところを照らし合わせながら、私の考えをお話したいと思っています。

先生は、人間形成について情緒的な、道徳的な、社会的な、宗教的な要素をそれぞれ持ち合わせなくてはいけないということを大変平明な形でお話されました。大学での人間形成は、大学では学生が入学すると教養課程から始まります。この「教養」という言葉と「人間形成」という言葉は、同じ意味の言葉を別な日本語で表現しているものと認識しています。教養が人間形成、あるいは人格形成と同じものと考えられるのは、カルチャーという言葉がそういう意味を持っているからだと思います。カルチャーは“人間を耕す”の意味がある訳で、これが教養であり、人間形成、人格形成だと理解しております。

そして、その人間形成は調和的な、文化的な、有為な、自由な責任のある人間となることでなければなりません。大学は一般に今挙げました調和的な、文化的な、有為な、自由な責任のある人間形成のためにと努力しています。特に、キリスト教大学は、カトリック大学であれ、プロテスタント大学であれ、いずれも宗教的な育成に大きな特色があり、キリスト教大学としての重要性和個性がそこにあると言えることができます。

そういう意味では、キリスト教大学というのは、ヨーロッパが本来持っていた、あるいはヨーロッパから始まった大学の原型を今日も継承しています。つまり、人間形成や教養という言葉は、本来礼拝を意味していました。この場合はもちろんキリスト教の礼拝ですが、たとえ神学

部がなくてもヨーロッパの大学では礼拝は不可欠なものでした。それがヨーロッパの大学の流れです。

次に、ピタウ先生も触れておりましたが、これまでの日本の歩みを見ておきますと、親が子どもに対して行う教育の最初の権利、すなわち親が子どもの教育に優先権を持っていることは非常に大切であると思います。親が先ず子どもを教育する。どのように子どもを教育するかは、当然親が決めなければなりません。親が優先権を持っているという事柄は、具体的な社会生活、あるいは私どもの教育の制度と社会生活や教育制度にどのように反映されるべきかが考えられます。親が子どもに対する教育の優先権を持っていることから、親はどの学校に子どもを送ればいいのかを決めることができる、という点にあると思います。しかし、大学に至るまで公立や国立の学校だけであると、親が自分の子どもをこのように教育したいという場合の選択肢がなくなります。それが全体主義国家で、旧ソ連・東欧社会でした。反対に、私立学校が盛んなのが先進自由主義諸国です。実際、ヨーロッパにおいて一番驚くのは、初等教育と中等教育に関して私立学校が圧倒的に多いことです。さらに子どもの教育を学校にお任せするのではなく、色々な形で親も参与しているのです。

現にヨーロッパの教育に関する基本的な規則や法律を見ますと、親の教育権が重要なものとして基本的な人権の一つになっています。ところが、日本では親の子どもに対する教育権というのは殆んど見られないのではないかと思います。教育は、すべて学校に任せるという風潮を感じます。躰のことから始まりまして、すべて学校

に任せています。私は、親の教育権が放棄されているように感じています。そのようなことから、親の教育権の復活を強く望んでおります。

最後に、大学を含めてキリスト教学校全体の在り方として、信仰や神学の深みを常に持ちながら、宗教を越えてすべての人間に神様から与えられた恵みや問題を明らかにしていかなければならないと考えております。つまり、キリスト教の信仰や神学から見ますと、すべての人間に共通に神から与えられているもの(一般恩寵)が「捧げる心」「思いやる心」「微笑む心」であると言えます。その「捧げる心」「思いやる心」「微笑む心」は創造者である神様からすべての人間に与えられたもので、言い換えれば、すべての人間が共通に持っているものがあります。これら神様から共通のものとして与えられていることを念頭に置きながら、「人間形成」を使命とするキリスト教教育を一層推進して参りたいと思います。

ピタウ大司教 はじめに、親の教育権について申し上げたいのですが、イタリアだけはヨーロッパで例外です。まだイタリア政府は私学助成を行っておりませんので、裕福な家庭でなければ私立学校に通わせることができません。しかし、ベルギー、オランダ、フランス、そして面白いのは旧共産圏の国々では自由を与えています。ハンガリーの例を挙げますと、ハンガリーでは私立学校をつくることはできませんが、国の設置基準を守ってつくるならば小学校、中学校、高等学校、大学までハンガリー政府は全額助成を行っています。また、ポーランドや古い共産圏の国々は50%まで政府が助成を行っています。このように、イタリアを除くヨーロッパでは、私学が占める割合が思いのほか高いことがお分かりいただけると思います。ちなみに、フランス、スペイン、オランダでは全体の66%は私立学校です。

神学部については、ドイツやイギリスをはじめ旧共産圏の殆どの大学でも、私立、国立を問わずプロテスタント

神学部とカトリック神学部があります。そして、そのプロテスタント教会あるいはカトリック教会に自由を与えています。それら教会の神学者の任命は、政府ではなく、あるいは大学でもなく、プロテスタント教会やカトリック教会が選んで任命しています。

現在、日本にはキリスト教徒と言われる人は人口の約1%しかおりませんが、キリスト教大学がこれまでどれほど日本の文化に影響を及ぼしてきたかを申し上げたいのです。先ほども言いましたように、洗礼を受けた人は全国で1%ですが、シンパ(sympathizer)を数えるならば恐らく25%位いるでしょう。それが文化的影響で、キリスト教主義学校の教育によるものです。シンパであるということはまだ信者ではありませんが、しかしもう心の中に種を蒔いたのです。

一つだけ例を挙げます。それは、1968年2月の最初の日曜日でした。ある75歳位のお年寄りの方が見えて、“神父様、私は上智の1期生です。やっと時期が近づいたので洗礼をお願いしに来ました”と。私はどのような名前を選びたいか尋ねたところ、彼は「マルコ」と言うのです。実は、彼が上智大学の1年生の時に出会ったアメリカ人の神父様を“いつもキリスト様を見るかのような気持ちでした”と言うのです。それで、彼は「マルコ」を選んだのです。そのアメリカ人の神父様は、口で教えるよりも自分の人生をもって教えたのですね。

私たちは希望を持って生きています。キリスト教大学で教えて、直ぐその結んだ実を見たいというのは大間違いです。しかし、信仰をもってキリスト教大学で働くということは、神の御国のための直接の働きです。これは身をもって言うことができます。22年前に日本を離れて現在イタリアにいますが、今でも毎年3,000人位の卒業生から手紙をいただいています。「教育は国家百年の大計」とも言われておりますが、将来を見据えてじっくり時間をかけて、そして希望を持って教育にあたるのが大事であると思います。



秋田県立秋田北高等学校

秋田市千秋中島町8番1号。全日制普通科に女子836人が在籍。同校は、1901年(明治34年)に秋田県高等学校として創立。1948年(昭和23年)に学制改革により新制高校に転換し、校名を秋田県立秋田北高等学校と改称。今年で創立周102年を迎え、卒業生は31,000人を超える。

私の 出身高校



工学部土木工学科3年
小野寺 紘子 さん

小野寺紘子さんの母校は、秋田県立秋田北高等学校。秋田北高校は、JR秋田駅から北西方向に約2キロ離れた千秋公園に隣接し、女子高校としては秋田県内で最も古い。同校の校訓は「自求真善美」。創立100周年を機に制定し、「真理を求めて熱心に学ぶ」「明るく誠実に正しく歩む」「美の感性を磨き創造する」の3点を意味する。その校訓は日常の教育目標にも活かされ、女子教育の伝統校として誇りを持ち、学業のみならず部活動においても大きな成果をあげている。

校長を務めるのは、28代目にあたる下村一男先生。「本校は品位と情操を重んじ、生徒一人ひとりの女性としての可能性と魅力を最大限に引き出す教育を行っています。男女共同参画社会だからこそ高校時代の3年間は本校で学んでほしいですね。」と下村校長。また、同校は創立以来、国内外で活躍する多くの人材を輩出している。同校長は「現在、ポーランドで青年海外協力隊員として剣道を教えている同窓生がいます。彼女はまだ26歳の若さですが、本校と東北学院大学の剣道部で活躍した生徒です。それから、小泉第2次内閣で国務大臣に任命された小野清子さんは、本校を昭和29年3月に卒業された同窓生です。小野さんは、自らの人生を切り開こうとする女性に勇気と希望を与えてくれました。在校生にもいい刺激になっています。」と話す。

前述の通り、同校の課外活動は盛んだ。剣道部は高校総体で6連覇を達成し、新体操部やソフトテニス部も今年インターハイに出場した。文化活動では、放送委員会が全国高校放送コンテストに毎年出場し、アナウンス部門と朗読部門で優秀な成績を収めている。また、同校は秋田県内で4番目の進学率を誇っている。平成14年度の実績では、国立が地元の秋田大が55名と最も多く、弘前大、岩手大、宮城教育大、新潟大と続く。私立では東北学院大の6名をトップに、秋田経済法科大、実践女子大、東北福祉大、日本大、青山学

院大、独協大、関西外大など全国の大学に進学している。

小野寺さんは、秋田北高校時代から理数科が得意で、なかでも数学は常に上位にランクされていた。1年次と3年次に数学を担当し、進路指導部に所属していた澤井康孝先生は「非常に落ち着いている生徒でした。物事にどっしりと取り組み、周りの状況に一喜一憂しないで、しっかりと自分の信念に基づいて行動していました。また、分からない問題があったら、とことん分かるまで考える。分からないと気がすまない、まさしく理数特有のタイプでした。」と当時を振り返る。

現在、小野寺さんは、学業と課外活動で多忙な毎日を送っている。月曜日から金曜日までは授業がびっしり組まれ、「地盤工学」「河川工学」「土木工学設計製図」などの専門科目を学ぶ一方、月曜日・水曜日・金曜日の午後5時30分から8時までは、バレーボール部のマネージャーとしてサークル活動を支えている。「課外活動と勉学の両立はできていると思います。専門科目が多くなり勉強は大変ですが、サークルを通して培った友情も大切にしたい。将来は、大学で学んだ専門知識を活かした職業に就きたいと思っています。土木コンサルタントや公務員になれたらいいですね。」と打ち明ける。卒業まで残り1年半。小野寺さんは、秋田で見守る恩師の声援を受けて、自身の“将来設計図”を完成させようと頑張っている。



校長
下村 一男先生



当時の進路指導部
澤井 康孝先生

ALLEY WILSON ゼミ



テーマ:株式市場の研究

経済学科 3年 宮崎 裕
宮城県仙台西高校出身

昨年、ゼミを選ぶ時期に、私はこのゼミにしようとしてすぐに決めました。以前から株式市場に興味を持っていた私にとって、「株式市場の研究」というテーマはとても魅力のあるテーマでした。授業が始まり実際に株式市場について学んでみると、株式市場は私が思っていたより奥深いものであるとすぐに気がつきました。それまではあまり深く考えずに、テレビやインターネットなどで株価が上昇・下落するのをただ面白いなと思っているだけでした。株価の上昇・下落が経済に影響を与えることは知っていましたが、株式とは実際にどのようなものか理解していなかったことを実感しています。授業を重ねるごとに、企業にとって株式とは重要な資金調達手段の一つであり、また我々にとっては、株式を購入することは、資金面から企業活動を支えることであるとともに、株主として企業の経営に参加し、日本経済を活性化させることも可能であるということがわかりました。

前期には、今日の日本経済の状況やその問題点などを討論し合い、その後、株式投資に必要なポートフォリオの概要とその組み方、株式のファンダメンタル分析方法を勉強しました。そして、本や雑誌さらにインターネットなどを利用して情報収集し、毎週交替で自分の研究成果を発表しました。後期には、日本の様々

な業界・企業を分析し、日経新聞主催のSTOCKリーグに参加することになっています。ここで我々は自らのテーマを決め、これまで得た経済学の知識を活かして実際に企業のファンダメンタル分析を行い、ポートフォリオを組んでバーチャル運用をします。今回、私達のグループはテーマを「セキュリティ」に決めました。実生活で増加している犯罪の防止やインターネット上のセキュリティはこれから日本でも注目されるに違いありません。自分達の実力がどの程度のものなのか知る絶好の機会ですので、STOCKリーグでの他の大学との運用競争が楽しみです。これまでの先輩達以上に良い成績を残せるように、欲を言えば優勝できるように頑張りたいと思います。

このゼミで、これまでいろいろなことを学んできました。経済学の知識だけではなく、私達は仲間とのチームワークを深めることもできたと思います。これからも、全員楽しみながら経済学を学んでいきたいです。



先生からひとこと

このゼミでは理論だけではなく、実際に社会に出てから役立つ知識の習得をめざしています。インターネットなどの様々な情報源を利用し、学生の分析能力を伸ばすように努めています。

Seminar

キャンパス・スケッチ Campus Sketch

キャンパスの木々もすっかり色づきました。
 大学ではこの10月に「泉キャンパス祭」「工学部祭」「六軒丁祭」が行われ、学生たちは学業からひととき解放され大いに青春を演じていました。本号では、秋から冬にかけてのキャンパス風景をご紹介します。そこには、ミッションスクールならではの光景もあります。



シュネーダー記念中央図書館





ラーハウザー記念東北学院礼拝堂



私と東北学院



経済学部助教授
阿部 重樹(あべ しげき)

1954年仙台市生まれ。東北学院大学経済学部卒、同大学院満期退学。現在、東北学院大学経済学部助教授。専門は社会福祉論。主な研究テーマは、ノーマライゼーション、介護の社会化(介護保険制度)、地域福祉計画。社会的活動として、宮城県社会福祉協議会評議員、仙台市勤労福祉協会理事、仙台市健康福祉事業団評議員、宮城県ボランティアセンター運営委員会委員長など。

私の生まれ育った家がたまたま東北学院大学土樋キャンパスの近くにありました。こうしたことから、もちろん当時の時代状況や社会環境が背景としてあつてのことですが、のどかな雰囲気をもった土樋キャンパスは私たちの小学校時代の遊び場の一つとなっていました。たいてい大学生の皆さんは私たちを静かに暖かく見守っていて、時には良きお兄さんやお姉さんとして私たちの遊び相手になってくれたという思い出があります。これが、私と東北学院の最初の出会いだったと思われまふ。このような私の思い出の中にある東北学院大学は、今日でいうところのまさに地域社会に開かれた大学だったという訳です。

さて、父が東北学院中学・高校の教員であったという生活環境の中で育つたことから、その後ほとんど何の違和感もなく東北学院中・高校で学ぶこととなりました。こうした私の体験は、本当にごく自然なものであつたのではないかという思いを今改めて強くしています。私の子ども達もまた、東北学院中・高校へと進学していることあるからです(もともと、娘の場合は、無理なのですが)。

こうした東北学院中・高校そしてその後の東北学院大学での学生生活には、わずかなほろ苦さを含ませながらもたくさんの良き思い出があります。私が中・高校で学んでいた頃には、東北学院大学で研究・教育にあつられていた先生方が、例えば通常の授業や夏期・冬期休暇中の講習に講師としておいでになられており、中・高校生時代から学校生活のなかで大学の先生に出会うという機会を持つことができたということがあります。また、中・高校生時代にお世話になつた先生が、大学で教鞭をとられているということもあり、大学のキャンパスで声をかけられるということもありました。当時から東北学院では「中・高・大学の一貫教育」といわれておりましたが、こうした私の思い出は東北学院らしさをもつた、今日とりあげられつつある高大連携の一つの姿であつたように思われまふ。

ところで、こうした東北学院らしさは、私の思い出のなかにある良きお兄さん、お姉さんとしての東北学院大学生らしさとともに、今日とても希薄になつてきているように感じられます。「大学生生き残りの時代」といわれ、大学の個性化が求められている現状のなかで、21世紀はスクールカラー(校風)の復興・時代であるとも捉えられるでしょう。スクールカラー(校風)というものは確かに伝統を継承するという一面を持ちつつも、21世紀にあり続ける東北学院大学であるためには、いま東北学院で大学生活を過ごす私たちがそれを単に与えられているものとしてではなく、教職員も学生も皆が大学を構成する一人として自らの大学生活のなかで東北学院らしさを新たに作り上げていくことが改めて求められる時代に生きていくように思われてなりません。



◆ハリー・ポッターとの出会い

東北学院同窓会100周年記念講演会が、「ハリー・ポッターとの出会い」と題して10月23日(木)に仙台市青葉区の電力ホールで行われました。開場の午後5時30分には、親子連れや友人同士の来聴者で満席となり、ハリー・ポッターの人気振りが伺えました。講師は、ハリー・ポッターシリーズの翻訳者で、みやぎ夢大使でもある松岡佑子さん。来聴者は、ハリー・ポッターの夢と魔法の世界に誘う秋の夕べを楽しんでいました。

◆宮城県知事が講義

経済学特殊講義Ⅱの講師として、浅野二郎宮城県知事が9月20日(土)の夕方4時に登壇しました。講義のテーマは「みやぎの産業」。経済学特殊講義Ⅱは後期開講の科目で、講師が毎週入れ替わるのが特徴です。浅野知事はトップバッターとして壇上に立ちましたが、最終講義を除いて外部講師を招いての講義となります。本学では、このほか野村グループによる提供講座も開設しており、実践的な教育効果を得るため経済社会の最前線で活躍している人を招いての講義も行われています。



◆ホームカミングデーを開催

第4回同窓祭・ホームカミングデーが10月18日(土)に土樋キャンパスで350名を超える同窓生を迎えて開催されました。「懐かしい出会いがそこにある」をプログラムの随所に演出した効果もあって、同窓生たちは恩師や旧友との再会を喜び合っていました。

◆平成17年4月に地域構想学科を開設

教養学部地域構想学科を新たに設置することになりました。同時に、教養学部教養学科の3専攻をそれぞれ「人間科学科」「言語文化学科」「情報科学科」に改組し、教養学部は4学科を有することとなります。今後、学内で文部科学省への申請作業を本格化させ、来年度中には認可申請を行う予定です。

◆「法科大学院」の設置準備順調

来春から、弁護士・裁判官・検察官の養成が専門の新型大学院「法科大学院」がスタートします。何学部であれ大学卒業後に入学して、原則3年で修了。直後の新司法試験に合格し、なお1年の修習で弁護士などになれる。東北学院大学は早くから準備をはじめ、教員も教育内容も決め、校舎は土樋キャンパス新棟の3階以上としました。入試は1月と3月の予定です。いま全国では70校以上で準備中ですが、東北・北海道で来年設置予定は、他の東北大・北大と計3校だけ。本学は、丁寧でわかりやすい教育をして、弁護士過疎地域をたくさんかかえる東北地方に役立つ法律家を育てようとしています。

クリスマス起源

Christmas

クリスマスは、イエス・キリストの誕生を祝う日です。クリスマスに関するエピソードを三つご紹介します。《預言の成就》旧約聖書の預言者イザヤは、紀元前8世紀に救い主(メシア)の到来を予告しました。イエス・キリストの誕生は、旧約聖書の預言の成就でした。ヘンデル作曲の「メサイア」(1741年)には、このイザヤ預言から数多く引用されています。《B.C./A.D.》6世紀の修道僧ディオニュシウス・エクシグウスは、ローマ史とユダヤ史の関連を調べ、イエス・キリストの誕生を境に人類の歴史を「キリスト以前(B.C)」と「主の年(A.D.)」に二分しました。しかし、今日の研究では、既に紀元前4年までにイエスが生まれていたと考えられています。《イブ礼拝》アメリカではクッキーだそうです。日本ではケーキを食べる家族団らんのクリスマスが行われます。今年は、東北学院公開クリスマス礼拝やキリスト教会のイブ礼拝に参加し「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである(ヨハネ3章16節)」というクリスマスの真の意義を味わっていただきたいと思います。

第54回公開東北学院クリスマスのご案内

日時:2003年12月12日(金)午後6時(8時終了予定)
場所:ラーハウザー記念東北学院礼拝堂(土棚キャンパス)

毎年12月に開催している恒例のクリスマスです。一般公開ですので皆様お誘いあわせの上、お出かけ下さい。詳細については、下記までお問い合わせ下さい。

東北学院同窓会(法人事務局庶務部校友課)
電話:022-264-6468
E-mail:dousou@staff.tohoku-gakuin.ac.jp



キャンパスの声

～学生インタビュー～



竹内 有佑

(たけうち ゆうすけ) 君
環境土木工学科2年
私立東北学院高校出身

中学時代の社会学で実際の土木工事を見たこと、これがのきっかけとなった気がします。コンクリート工学の授業はとても面白く、来年はさらに専門的な分野を学ぶことができるのでとても楽しみにしています。3年生になるとコースにより学ぶべきものがより明確になってくるので、将来にうまくつながればと思っています。

実家は青森県で、中学生の時から親元を離れて生活しています。親への感謝の気持ちは、口にもうまく表すことはできないのですが、賑やかな友人に囲まれて楽しく過ごしているところを見せてあげたいです。

岸浪 彰洋 (きしなみ あきひろ) 君
機械創成工学科1年
宮城県仙台東高校出身

設計・製図に興味をもっていたのでこの学科を選びました。昔から勉強したいと思っていたことを学べるのはとても嬉しいですね。ほとんど毎日授業で、週末はアルバイト。良い友達もでき、工学部祭では一緒にバンドを組んで参加もしました。忙しいながらも充実した学生生活を送っています。

アルバイト先でも、売り上げにつながる仕事を任せられるようになって、やりがいを感じますし、自分の中に責任感が生まれてくるのを実感します。そんな自分の姿を見守ってくれている親の優しさ、ありがたみを最近とても感じるようになりました。親のためにも自立できるように頑張っていこうと思います。



大谷 匡代 (おおたに まさよ) さん
経済学科夜間主コース3年
宮城県築館女子高校出身

入学当初、楽しみにしていたのは人との出会いです。学院大といえば学生数の多さ、また歴史のある大学というイメージがあり、高校時代からとても憧れていました。オープンキャンパスでは泉キャンパスの広大さにとても驚かされたのですが、やはり私は土曜キャンパスの趣深さ、これが一番だと思います。

経済学は今の社会を見るヒントになるので、とても面白いです。ゼミでは社会病理学について自分で興味深いテーマを選び、発表・ディベートを行っています。私の選んだテーマは「シングル化する日本」。こうして深く勉強した結果が、将来役に立てば良いと思います。

就職セミナーにも参加して情報収集をし、現在色々な資格を取ろうと勉強をしています。両親には私の将来についての話をあまりしていなかったのですが、不安に思わせているかも知れません。行き着く場所を今一生懸命探している途中ですが、最終的に社会・まち・人に関わる仕事をしたいと考えています。

就職部だより

1. 就職部の役割について

就職部では「職業安定法第33条の2『学校の行う無料職業紹介事業』という法律に基づいて就職を希望する学生(※大学に求職票を提出した学生)に対して、学生が望んでいる職業に就職できるように支援・指導・相談業務を行っております。

2. 就職部における就職・進路支援について

- 1年生: 就職部の説明(入学後のオリエンテーション時)、教員・公務員講演会、就職対策講座、カレッジTOEIC、パソコン講習会、論作文講座
- 2年生: 就職ガイダンス(2年生用)、教員・公務員講演会、就職対策講座、カレッジTOEIC、パソコン講習会、論作文講座
- 3年生: 就職説明会(3年生用)、就職登録、就職講演会、グループ別懇談会又は個人面談、就職情報セミナー、先輩体験談、業界研究講座、企業研究講座、適正検査(SPI)、教員・公務員講演会、公務員講座、警視庁・国税専門官説明会、裁判所事務官・家庭裁判所・日本郵政公社説明会、ファイリング講座、エントリーシート講座、論作文講座、パソコン講習会、カレッジTOEIC、就職実践模擬試験、

教員模擬試験、公務員模擬試験

- 4年生: 就職説明会、公務員講座、各種直前対策模擬試験

※注 学生は、企業の採用活動の早期化に伴い、出来れば3年生の冬休み前までに自分の進むべき道を見出しおくことが肝要で、その為にも学年を問わず就職部の活用が望まれます。

3. 2003年(2004年3月卒) 就職戦線について

景気が回復しないままスタートした企業の本年の採用活動ではありましたが、本学に対する求人数は9月末現在で比較すると昨年より上回っており、競争率の高い公務員や教員志望の学生も善戦しております。就職部では、今後も多くの企業から求人の申し込みがあるものと予想しております。したがって、まだ内定を受け取っていない学生も、今からでも十分間に合いますので、粘り強く就職活動を行うことを期待しております。

私たち就職部は一丸となって、学生を励ましながら自信を持たせて、学生の背中を押してあげようと思います。ご父母の皆さんの更なる力強い励ましとご支援をお願いいたします。

学習支援と成績表の送付について

教務部は、科目登録、時間割編成、授業運営、定期試験実施、成績の管理、教職等資格取得関係、各種証明書発行等の業務を通じて学生諸君の学習支援の一端を担っております。

今回は、特に、本年度から実施することになりました「成績表等送付」について説明しますので、その趣旨を十分ご理解いただき、学生諸君が順調に勉学活動を行えますようご支援下さい。

「定期試験」の実施時期は、前期試験は7月下旬、後期試験は1月下旬です。これらの試験の結果は、従来から前期試験については「成績通知書」を夏期休暇終了直後に、前年度までの年間成績については「単位修得表」を4月初めに学生本人に配付・発表しております。4年生の場合には、2月中旬の卒業予定者名簿発表日に配付しております。

さらに、本誌をご覧になる頃にはすでに関係書類がお手元に届き、必要な手続きを済ませておられることと思いますが、平成15年度からは新たに所定の手続きを経て「成績通知書」、さらに平成16年度から「単位修得表」を保証人（親権者）の方にも送付することになりました。次に、確認のために当該の手続きを記載します。

- (1) 平成15年度については、在学生全員の保証人宛に〈成績通知書等送付申込書〉を送付します。送付希望の場合、学生本人及び保証人連署のうえで申し込むものとします。平成16年度以降も送付希望を随時受け付けます。なお、「申し込み」の効力は卒業までとします。**
- (2) 平成16年度以降については、新入生（編入学生、再入学生及び復籍学生を含む）が入学時（あるいは再入学または復籍時）に提出する学籍簿裏面に〈成績通知書等送付希望〉欄を設け、送付希望の場合、学生本人と保証人連署のうえで申し込むものとします。平成17年度以降も送付希望を随時受け付けます。なお、「申し込み」の効力は卒業までとします。**

以上の要領にもとづいて手続きを完了した場合、(1)（平成15年度以降）10月に、当年度前期の「成績通知書」を、(2)（平成16年度以降）5月に、前年度までの「単位修得表」を保証人宛に送付することになります。

近年、全体的に所定の年数で進級や卒業が出来ない学生（原級止め、留年）が増加傾向にあります。本学は、「教育課程」の編成・運用に際して、各学科・専攻の教育目標の達成を基本としつつ履修上の整備を図っております。すなわち、進級・卒業要件は学生に過大な負担となるものではなく、必要最低限の条件設定を行っております。

したがって、そのような要件に基づいて毎学年の履修計画を設定すれば、順調に履修を進めていくことが出来るのです。その前提として、学生本人とともに保証人の方も科目受講状況や単位修得状況を十分に把握しておくことが必要になります。

このような保証人の方への「成績表等」の送付は、本学が常に十分に留意しております学生諸君に対する教育についての配慮を表現するものであります。保証人各位におかれましても、学生諸君に対して助言や激励等種々の面で精神的な援助をなされるために十分活用していただきたいと思います。

同窓生インタビュー

医王山 鉤取寺 第22代住職 **都築 元之**(つづき もとゆき)さん

昭和33年文経学部経済学科卒業。(株)三立を経て、寺の後継者として入山。僧名、元之(げんし)。現在、仙台仏教会監事並びに社会福祉法人鼎会理事長を務めながら、仙台市太白区の保護司として地域社会に貢献している。



お寺の後継者にもかかわらず、キリスト教大学である本学に進学されたのはなぜですか。

本来なら仏教関係の駒沢大学に進学すべきところだったんですが、私には9歳、12歳、15歳と年が離れた弟が3人いました。当時は家計が厳しかったらしく、東京への仕送りが困難なので何とか地元の大学で学べないかということになり東北学院大学に進学しました。私は長男としていずれ寺を継ぐことを意識しておりましたが、仏教しか知らないよりも、学生時代にキリスト教に接することで宗教観がより深まることを願っていました。また、勉強するのはどこでも一緒という考えを持っていました。

学生時代についてお伺いしますが、特に印象に残っている思い出は何ですか。

何といってもラグビーでしょうね。高校時代はラジオづくりに夢中になっていた時もありましたが、高校2年生の時に校内ハンドボール大会で優勝したことがありました。それで、小さくてもできるポジションがあるからと先輩に勧められ、ラグビー部の助っ人として試合に出場していました。たまたまその試合を見ていた東北学院大学ラグビー部の先輩がいて、入学式の時に大学正門のところを勧誘され、それで入部しました。“ラグビー部卒業”といっても過言でないくらい、学生時代はラグビーに明け暮れました。部室とグラウンドにいる時間の方が、教室にいる時間よりも長かったかもしれません。先輩たちは、よく面倒を見てくれました。お蔭で、ラグビーを通した部活動は私の人間形成に大いに役立ちました。

また、秋の全国大会地区予選(東北大会)で優勝したことがとても印象深く、今も記憶が鮮やかに甦ってきます。大学1年生の時でした。ラグビーを本格的に始めて、初めての経験でした。それから、同じ1年生の時の明治大学との練習試合も忘れられません。当時の明治大学は黄金時代の創成期で、当時のラグビーを知る人なら誰でも知っている夏井選手と宮井選手といった全国的にも有名な選手たちと対戦しました。向こうもベストメンバー

で臨んでくれ、大いに試合が盛り上がったことを覚えています。結果は、62対3で大敗しましたが、双方の先輩から「いい試合だった」と褒められました。うれしかったですね。また、その練習マッチが縁で、相互の友情も芽生えました。今でも時々懐かしく思い出しています。

学生時代にキリスト教と接し、仏に仕えるものとして活かされていることとはどのようなことですか。

真理の宗教というものは、どこでも一緒なのではないでしょうか。目指すところはそれぞれの頂点、すなわち人類と世界の平和でしょうね。学生時代に聖書から「隣人愛」を学びました。仏教でもそれと同じような言葉として「慈悲」があります。要するに、キリスト教も仏教も目指すところは同じじゃないかなと思います。ただ、表現の仕方が違ったりしますが、山(真理)への登り方は幾方向もありますので、頂点を目指すという観点から申せば、キリスト教も仏教も皆同じだと思いますね。ですから、学生時代にはよく讃美歌を歌いましたし、今でもキリスト教を異質とは感じておりません。

禅の教えに学び、伝えたい心とは何ですか。

一言で申すならば、「任にあたって、他に譲りがたし」です。これは、何か事にあたっている時にたとえ困難にぶちあたってもその場から逃げないで、先ずそこで最大の努力をしてその任にあたりなさい、ということの意味しています。禅から受けた処世辞ですが、私は法話によく活用しています。私の「座右の銘」でもあります。

先輩として在学生にメッセージをお願いします。

校歌の歌詞にもある「世の光」を心に刻み込んで卒業してほしいですね。それと、若い学生時代だからこそ自分に対して常に生き方を問いかけ、人間性を磨き、そしてよりよく生きるための考え方を学んでいってほしいと思います。

サークル紹介

Circle

バスケットボール部女子



主将
経済学科4年
渡部 真紀子

私立尚絅女学院高校出身

私たちの部は、昭和42年ごろ数人のバスケットボール愛好者によって創部されました。現在のOG会の練生川陽子会長がこのときのメンバーでした。当時は、現在のように男女別活動ではなく、男子部とともに活動していたと聞きました。この時から現在のバスケットボール部という1つの団体に男女が共存する形となり現在に至っています。

女子の活動は、今でこそ全国を舞台に活動していますが、部員確保ができずに苦慮する時期がありました。その中で昭和46年と49年に東北学生選手権で優勝。その後、50年代は東北地区で優勝することもままならない時代になり低迷期でした。60年代からは現コーチの佐々木桂二コーチが就任し、選手の確保も推薦制度等で安定し、現在に至るまでインカレ常連校として安定した力を発揮しています。特に平成10年にシャンソン化粧品で活躍していた相澤優子先輩の加入は大きな力となり、部員

に意識改革が芽生えました。平成12年のインカレ4位、13年3位、そして相澤さんが卒業された14年も強豪を打ち破りベスト8入りしました。全国の強豪校と臆せず試合ができる自信がチーム内に根付いています。

私たちの活動は、部員15人が一体感を持って、通常(7月・2月はお休み)週6日間で1日2時間の練習を泉キャンパスで行っています。個人の技術の向上やチームプレーを重視し集中した時間を過ごすことで、各種大会へ備えています。

私たちの部が強いチームになれたのは、佐々木コーチの指導力がもちろん大きな要因ですが、先輩方が築いてきた伝統の中で、選手一人ひとりが自主的に向上心をもって練習を行ってきた継続の力だと思います。今後も学生として勉学とスポーツの両立を図り、更なる飛躍を目指して頑張っていきます。



編集後記

不安と期待を抱いて入学した新入生も学生生活にすっかり慣れてきたようです。「読書の秋」に代表されるこの時期は、将来を見据えて真剣に勉学に励んでいる学生を多く見受けれます。

今夏に開催しました地区後援会でも、ご父母の皆様方からご子女の成績や就職問題に多くの関心が寄せられました。後援会事務局では、ご都合により後援会総会や地区後援会にご出席できなかったご父母に対しても「後援会通信」を通して学内外の状況やご子女の様子をお伝えし、少しでも不安の解消に努めて参りたいと思っております。秋号は、ご

子女に対する学習支援や就職支援の主な内容を掲載しました。次号もより充実した内容に編集して参りますので、今後とも更なるご支援をお願いいたします。

なお、今号より、兄弟・姉妹で通学されているご家庭には、「後援会通信」を一部の送付とさせていただきます。ご父母の皆様には、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。また、これまで通り送付を希望されるご家庭は、お手数でも後援会事務局までご連絡下さい。

後援会事務局長 高橋征士

GROWTH

GROWTH(グロース)の意味は、「成長する」です。聖書には、小さな種が大きな木に成長し空の鳥がその枝に巣を作る(マタイ13章32節)。また、そのように大きく成長させてくださるのは神である(1コリント3章6節)と記されてお

ります。東北学院大学の学生の皆さんが各専門分野において知識や技術や教養を十分に修め、神と人に祝されつつ大きく成長するよとの期待が表題の**GROWTH**に込められております。

東北学院大学後援会事務局(総務部調査企画課内)

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号 TEL:022-264-6424

<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp>

e-mail c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp